

二〇二六年度

トキワ松学園中学校入学試験

国語第一回

問題用紙

受験番号

開始と同時に受験番号を
書き入れなさい。

線部①～⑩の漢字は読み方をひらがなで答え、カタカナは漢字に直しなさい。

- ① 新しい大臣が就任した。
- ② 旅行の綿密な計画を立てた。
- ③ 山の頂上から町の景色を見下ろした。
- ④ からくさ模様の布で包む。
- ⑤ 穀物の自給率を向上させる。
- ⑥ 池のシュウイを走る。
- ⑦ マズしいけれど幸せに暮らす。
- ⑧ ウチユウの起源を感じる。
- ⑨ 病院でケツエキ検査がある。
- ⑩ 日本のセイジや経済を学ぶ。

二

次の問いに答えなさい。

問一 次の1～3の□に入る数字を、それぞれ漢字一字で答えなさい。

1 石の上にも□年 ……辛抱強^{しんぼう}く努力すればいつか成果が出ること。

2 □聞は一見にしかず ……何度も聞くより自分の目で確かめた方が確実であること。

3 □階から目薬 ……物事が思うように行かずにもどかしい思いをすること。

問二 次の1～3の□に入る身体の部分で、それぞれ漢字一字で答えなさい。

1 □が立たない ……相手が強すぎて対抗^{たいこう}できないこと。

2 □が高い ……得意な様子であること。

3 □を焼く ……どう扱^{あつか}ってよいかわからないこと。

問三 次の意味をもつ四字熟語として最もふさわしいものを、次のア～カからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

1 古いことから新しい知識を得ること。

2 激しい苦しみにもがき続けること。

3 何事にも動じずに落ち着いていること。

4 まわりが敵ばかりで味方がいないこと。

ア 四面楚歌しめんそか

イ 温故知新おんこちしん

ウ 付和雷同ふわらいどう

エ 七転八倒しちくんぱっとう

オ 泰然自若たいぜんじじやく

カ 一日千秋いちじつせんしゅう

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(問いの下の数字は、本文での行数を示します)

1 勇気をもって自分で考えることには、寒風の中に薄着^{うす}のままひとりでたたずむような感じが伴^{ともな}うと先に書きました。
2 むしろ、自分で考えるのを止めれば、そして世間で「よし」とされていることに対して従順に振^ふる舞^まうなら、私たちは
3 暖かい日常を生きられるのかもしれませんが。

4 1、ここでいったん立ち止まりましょう。このように「自分で考えること」と日常を生きることとを、二
5 つに分けてしまうのもまた、単純な態度ではないでしょうか。

6 「自分で考えること」に勇気がいるからといって、それをなにかヒーローの振る舞いのように理想化し、世間で自分
7 の役割を担いながら毎日をていねいに生きることをつまらないことと見なすなら、私たちは本当に「自分で考える」こ
8 とができないのではないのでしょうか。

9 2、自分で考えているときでも私たちは、その私のことを気づかう家
10 族や仲間に取り巻かれて生きていますし、私たちもまたそうした人々を気づかっているからです。 3、家族
11 が旅行に出かければ、天気はよいか、からだの具合はわるくないか、友だちと仲よくしているか、などなど。

12 自分で考え始めるとき、私たちは自分をこのようにさまざまな、〈よい〉〈よさ〉や〈わるい〉〈わるさ〉が取り巻い
13 ていることに気づきます。私たちは、そうした〈よさ〉をもった世間に生まれ、そこで育てられたのです。そして、そ
14 れらが私たちの日常を方向づけ、ときには生きる指針にさえなっています。

自分で考えるとき、私たちはそうしたさまざまな〈よさ〉と向き合わねばなりません。それらは、もっとも身近でこ

まごましたことにも付きまとうのみならず、ときに大きく人々の振る舞いを左右するからです。 どうしてそれらは〈よい〉のでしょうか、〈よい〉とされているのでしょうか。

こうした問いに向かい合うとき、私たちはしばしば、それらは〈なにかのためによい〉のだ、と答えるでしょう。たとえば、シャープペンシルは文字をノートに書きつけるためによいとか、書物は知識を得るためによいとか。彼女は頭がよいからテストで楽勝だ、というのも同じ考え方です。

4

それら以外のなにかのためによいのです。このとき、〈それら以外のなにか〉もまた、なんらかの意味で〈よい〉はずです。ノートをとるのは試験対策のためによく、知識を得るのは人生の幅を広げるためによいのではないのでしょうか。

こうした問いは容易に終わりません。しかし私たちは、〈○○のために△△はよい〉というとき、△△のよさは○○のよさによって支えられているのであり、その点で○○のほうが〈もっとよい〉ことが前提されていることに気づきます。〈よさ〉の領域には、価値の上下があるのです。

そうだとすると、〈いちばんよい〉のは为什么呢。これは、古くからある問いです。古代の哲学者、アリストテレス（前三八四―三二三）は、彼の息子の名前を冠した著作『ニコマコス倫理学』で、いつでもそれ自身として望ましく、他の何ごとかのために望ましいのではないものこそが究極の〈よい〉ことだと指摘します。私たちのカントもまた、そうした〈他の何物のためでもなく、よい〉ことの存在を指摘します。それは、たとえば、誠実であること、嘘をつかないこと、困っている人を助けることであり、総じて言えば、道徳的に行為することです。

確かに、困っている人を助けることは、助けられた人から感謝されるからよいのも、自分がその振る舞いによって

満足するからよいのでもなく、それ自身でよいのではないでしょうか。こうした道徳的な意味での〈よい〉〈よさ〉をこれからは「善」と表現しましょう。道徳的な善を実現することこそが、〈いちばん善い〉ことなのです。カントはこれを「最上善」と呼びます。

さて、道徳的に善く生きることが〈いちばん善い〉ことだとしたら、その他のさまざまな〈よい〉は無価値なものになってしまったのでしょうか。テストでよい点をとろうとして、よく学ぶことも、よく学んだ知識を用いて社会で成功することも、よく働きよく稼ぐ^{かせ}ことで裕福^{ゆふかく}な家庭を築くことも、価値のないことになってしまったのでしょうか。

もちろんそうではありません。むしろ、そうしたものの〈よさ〉こそが、私たちの生まれ育った社会に根づいているのです。そうだとしたら、〈いちばん善い〉こと、すなわち道徳的な善に加えて、そうしたさまざまな〈よい〉ものもまたすべて与え^{あた}られていること、それこそが最高に善いのではないのでしょうか。カントはこうした完全な善を、最上善と区別して「最高善」^③と呼びます。

そんな完璧^{ぺき}な善を考えることは、あまりにも空想的で、中秋^{ちゅうしゅう}の名月を空高く見上げるようなものだと思いますか。自分とは無関係なものだと思いますか。しかし、「最高善」が文字通り最高に〈よい〉のであれば、私たちはそれに無関心ではいけないはずです。なにしろ私たちの日々は、「もつと英語がよくできるようになろう」「もつと友だちと仲よくしよう」といった、〈もつとよく〉と無関係ではないからです。〈もつとよく〉に関心をもつ人は、〈最高によい〉に無関心でいられません。そして、それが私たちの生きる意味を支えるのです。いいことばかりではない日常でも、最高善をはるか遠くに見定めることで、がんばっていきけるのです。【あ】

46

45

44

43

42

41

40

39

38

37

36

35

34

33

32

31

その具体的な説明は後に回すとして、ここではむしろもっと手前に残っている大きな問題に注目しましょう。それは、「^④道徳的に善く生きる」というとき、その善は、誰にとっても善いのだろうか、言いかえれば、道徳的善は^注普遍性をもつのかという問題です。【い】

カントはこの問題について、道徳的善は〈誰かにとって善い〉などというようなものでなく、そしてそれにもかかわらず、誰にとっても善いのだと考えました。つまり、先の問いに確信をもって「その通り」と答えたのです。【う】

ところが、実は、そのさらにもっと手前にもうひとつの大きな問題が残っているのです。それは、道徳的な善の普遍性を問題にする以前に、そもそも〈普遍性〉などというものに人間は関わることができるのだろうか、という問題です。このとき普遍性とは、「一般的に言って〇〇である」というような〈一般性〉と異なり、厳密な意味で、すなわち例外なく人間に当てはまることを意味します。【え】

カントの同時代、イギリスでは経験重視の思想が盛んであり、ヨーロッパにも影響を与えていました。カントもまた、クヌッツェン先生を通してイングラントの哲学者、ジョン・ロックの思想を学び、後には、スコットランドの哲学者、デイヴィッド・ヒューム（一七一―一七七六）の思想に接し、^⑤衝撃を受けています。なるほど私たちが生きていくために、経験からさまざまなことを学ぶことは不可欠です。それどころか、私たちの学びは、そのほとんどすべてが経験に依存しています。だからこそ、経験重視の思想にはリアルな感じがあります。

しかし、経験が教えてくれないこともあります。たとえば、今日が雨降りだとしましょう。みなさんの目の前には、降り注ぐ雨と、濡れた地面が見えています。これをまとめて「今日、雨が降って、地面が濡れているを見た」経験

と呼ぶことができます。これは事実であり、これをみなさんは日付とともに日記に書くこともできます。

しかし、経験は「○○である」ということを教えてはくれますが、「○○以外ではありえない」ことは教えてくれません。ここで明日のことを考えてみましょう。「今日は雨が降って地面が濡れていた。だから、明日も雨が降ったら地面が濡れるはずで、それ以外ではありえない」と考えるのではないのでしょうか。でも、どうしてそう考えるのでしょうか。今日の雨が地面を濡らしているという経験が、明日の雨が地面を必ず濡らすだろうという〈必然性〉を教えてくれるのでしょうか。

もう少し視野を広くとってみましょう。「いやいや、今日だけではない。これまでもずっと雨が降るたびに地面が濡れてきた。だから明日の雨も地面を濡らすはずだ」と考えてみるのです。この考えには説得力があるのでしょうか。一〇〇回雨が降ってそのつど地面が濡れたからといって、一〇一回目の雨が地面を必ず濡らす保証などないのではないのでしょうか。ここに一般性と普遍性の相違^{そうい}が顔をのぞかせています。

しかし、それでもやはり私たちは、「今日は雨が降って地面が濡れていた。明日も雨が降ったら地面が濡れるはずで、それ以外ではありえない」と考えます。したがって私たちは、日々経験することがらについて普遍性や必然性を考えているのです。この困惑^{こんわく}は、私たちの考え方がおかしいのか、つまり一般性を普遍性にすり替えて考えているのか、それとも私たちにはなお普遍性や必然性を語るいわば権利があるのか、という問題をひき起こします。これこそ、カントが『純粹理性批判』^{じゆんしんすい}で考えた問題です。

なお、この問題は現代の人類社会に関わる現代的問題でもあります。現代は、ひとやものや情報が国境などおかまい

78

77

76

75

74

73

72

71

70

69

68

67

66

65

64

63

なしに地球上を往来する

A

の時代です。他方、このような動向に対応して、歴史的に形成された各地域における言語や文化の多様性もまた重視される時代です。では、なにもかもが多様な文化や言語によって、たがいに相対的に形成されたのだとしたら、人間なら誰にでも当てはまること（普遍性）や誰もがそれ以外ではありえないと考えること（必然性）はどこにも見出せないのでしょうか。

カントと同時代の何人かの哲学者が、そして現代の多くの哲学者が、この問題を「言語」について深く考えることで解こうとしました。しかし、カントは、人間が使う言語ではなく、人間の「認識能力」に注目して、この問題を解決しようとしています。後者にこそ、普遍性を見出すことができる考えたからでしょう。そもそも言語は、^{注3}ベーコンが「市場のイドラ」で指摘したように、十分に定義されているとは限らず、いつでも人々の手あかにまみれています。言語を手掛かりにしていたのでは、自分で考えることができません。

（出典 ^{みこしば}御子柴善之『自分で考える勇氣 カント哲学入門』問題作成のため一部改変しました）

注1 カント (27) ……ドイツの哲学者。批判哲学を唱えた人物。

注2 普遍性 (48) ……すべての物事や、多くの物事にあてはまること。

注3 ベーコン (85) ……イギリスの哲学者。経験主義を唱えた人物。

注4 市場のイドラ (85) ……言葉の不適切な使用から生じる誤解や誤ったうわさのこと。

問一 空らん

 に入る言葉として最もふさわしいものを、次のア～オからそれぞれ選び、記号で答え

なさい。(4、8、9、19)

ア なぜなら イ つまり ウ たとえば エ しかし オ あるいは

問二 ——— 線部①「それら」とありますが、指示語の内容を説明しなさい。(12・13)

問三 ——— 線部②「へいちばんよい」のはなんでしょうか」とありますが、次の文はその説明です。文中の空らんに入る言葉を同じ段落から五字以内でぬき出しなさい。(25)

カントにとって、〈へいちばんよい〉のは、嘘やごまかしなく何かをしたり、他者を助けたりすること、すなわち、
() に行動することである。

問四 ——— 線部③「最高善」とありますが、「最高善」における筆者の考え方について、最もふさわしいものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。(40)

ア 「最高善」は理想的な考えであり、私たちと遠く離れた無関係な考え方だとしている。

イ 「最高善」を目指すことが生きる意味を支えて、日常を生きていく力になるとしている。

ウ 「最高善」は遠い過去思想であり、今の現代社会では通用しない考え方だとしている。

エ 「最高善」を社会のルールとして広めるべきであり、全国民に必要な考え方だとしている。

問五 ——— 線部④「道徳的に善く生きる」ことについて、カントはどのように考えていたか。「普遍性」という言葉に着目して説明しなさい。(48)

問六 ——— 線部⑤「私たちが生きていくために、経験からさまざまなことを学ぶことは不可欠です」とありますが、経験における筆者の考え方について、最もふさわしいものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。(58・59)

ア 経験はすべてのことを教えてくれる万能なものである。

イ 経験があれば、未来のことも完璧に理解できるようになる。

ウ 経験は事実を教えてくれるが、必ずそうなるとは限らない。

エ 経験が多ければ多いほど、それ以上考える必要はない。

問七 ——— 線部⑥「一般性を普遍性にすり替えて考えているのか、それとも私たちにはなお普遍性や必然性を語るい

わば権利があるのか、という問題」とありますが、カントは何によって解決しようとしたか、九字でぬき出しなさい。(記号をふくめる) (75・76)

問八 空らん A に入る言葉を一つ選び、正しく書きなさい。(79)

エコロジー

グローバリゼーション

プライバシー

マイノリティ

問九 次の文章は本文中のどこに入りますか。本文中の【あ】～【え】から一つ選び、答えなさい。(46、49、51、55)

【カントが考えたことを説明する手始めとして、「最高善」にかんする彼の考えを説明したのは、これこそが彼の哲学を貫いている課題だからです。彼の書いた三つの批判書もそれ以降の著作も、それぞれこの最高善について、その可能性をどうやって確保し、それをどうやって実現していくのか、という問題に関わっているのです。】

問十 本文で書かれている「普遍性」と「一般性」の違いに関する説明として最もふさわしいものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 一般性は例外なくあてはまるが、普遍性はおおむね当てはまる。

イ 一般性と異なり、普遍性はすべての人間に当てはまる。

ウ 一般性は経験から導けないが、普遍性は導くことが出来る。

エ 一般性と普遍性は、ほぼ同じ意味で使われている。

問十一 本文の内容として最もふさわしいものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 筆者は、「自分で考えること」は一人で静かに行う特別なものであり、世間の考えに従うだけでなく自ら考えることも大切だとしている。

イ アリストテレスは、道具のように「なにかのためによいもの」こそが本当の〈よい〉ことであり、それ以外の〈よい〉には価値がないと論じている。

ウ カントは、困っている人を助けるなどの「道徳的に正しい行い」を最上善と呼び、それに社会の中での色々な〈よい〉を加えた完全なものを最高善と考えた。

エ ベーコンは、経験を重ねていけば自然の法則や人の考え方には同じ結果が現れると考えて、そこから普遍的な真理を導けるとくりかえし主張した。

